

肝属郡医師会立病院の施設再整備に向けて 基本構想策定

平成30年に肝属郡医師会から要望を受けて検討が始まった、肝属郡医師会立病院の施設再整備。病院の現状と向き合い、これからの南隅地域に本当に必要な医療・介護の姿をテーマに議論を重ねながら、令和3年3月に基本構想が策定され、実現に向けたステージへの新たな挑戦がスタートします。

平成30年1月、肝属郡医師会から肝属郡医師会立病院の移転建替えに関する要望書が錦江町と南大隅町の両町に提出され、同年8月に検討委員会を発足しました。南隅地域の医療拠点を担い、この地域で唯一入院施設を整備する病院として重要な役割を果たす存在ですが、建築後40年が経過し、施設の老朽化による多額の改修費は平成24年からの7年間で3億円を超える状況。さらに土砂災害警戒区域にも指定される病院の立地環境は災害にも弱いことから、早急な移転建替えの検討が課題でした。

検討委員会では町民座談会や施設見学会を開催し、病院の建替えだけに限らず地域医療全体のあり方を模索。令和2年度にアイテック株式会社（東京都）に基本構想

作成を委託し、先月22日の第4回検討委員会において策定されました。4月以降はこの基本構想に沿って施設再整備に向けた基本計画の策定を進めていきます。今後は専門的な内容を含むことから新たに検討組織を再編。新病院の役割や診療機能の方針、移転場所、整備スケジュールなど具体的な計画策定がスタートします。

基本構想で示された2040年の経営環境を前提に、肝属郡医師会立病院の強みを最大限に生かすつつ、弱みや脅威を発想の転換でチャンスと捉え、医療の提供を受ける場所という、これまでの概念を根本から見直すことで、私たちが本当に必要なこれからの「南隅地域のための医療介護の姿」が見えてくるのではないのでしょうか。

基本構想を策定



3月22日に開催した第4回検討委員会で施設再整備に向けた基本構想が示され、今後のスケジュールや具体的な基本計画の策定に向けた協議を行いました。

病院見学ツアーを開催



施設見学会では老朽化した設備修繕箇所状況を、説明を受けながら確認した参加者。見学後の意見交換会では改修状況や施設の問題点などが議論されました。

町内7カ所で座談会



平成30年9月に町内7会場で開催。南大隅町でも行われ、南隅地域の医療拠点である医師会立病院の現状や今後の姿について意見を交わしました。

第1回検討委員会開催



平成30年1月、肝属郡医師会から病院の「移転建替えに関する要望書」が両町に提出され、同年8月に19名で構成する検討委員会が発足しました。

地域医療


「南隅地域のための医療介護の姿」

肝属郡医師会立病院の施設再整備 策定された基本構想の概要

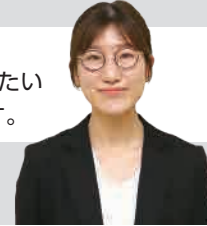
- 病院と介護老人保健施設の一体型
- 施設構成 ▶ 地上4階建て
- 病床数 ▶ 130床(現状は196床)
- 想定する延床面積 ▶ 12,250㎡
- 想定する敷地面積 ▶ 26,000㎡
- 想定する駐車場台数 ▶ 500台
- 概算整備費 ▶ 約57億8千万円

新規採用


令和3年4月1日付けで未来づくり専門員に着任した5名をご紹介します！

 移住促進動画「ジワジワ住みたくなるまち」を見て、みごと町の虜になり応募しました！自身も一人の親として「健康おせっかい」活動に取り組みます。


健康・子育て専門員 / 所属 ▶ 健康保険課
◀◀◀今井 泰子 (41) / 千葉県印旛郡酒々井町

 芸術家の仕事場を広げ、それが地域に良い形で還元される仕組みを作りたいです。錦江町の魅力を発信し、この素敵な町に貢献できるよう頑張ります。


関係人口創出広報クリエイター / 所属 ▶ 未来づくり課
東京都清瀬市 / 伊藤 愛 (25) ▶▶▶

 ご縁あって錦江町でお世話になります。優しい皆さんと一緒にこの町で生活できることを嬉しく思います。五感をフル活用して町の魅力を発信します！

関係人口創出広報クリエイター / 所属 ▶ 未来づくり課
◀◀◀友安 麻里亜 (25) / 宮崎県小林市

 鹿屋市出身で高校卒業後、東京で10年働いたことで都会と地元それぞれの良さに気づけました。微力ながら錦江町のお手伝いをさせてください！

空き家利活用チャレンジャー / 所属 ▶ 政策企画課
東京都葛飾区亀有 / 吉屋 和鼓 (28) ▶▶▶

 ゲストハウスがあることに興味を持ち、宮城県仙台市から来ました。交流しながらお役に立てたらと思います。皆さんいろいろと教えてください！


空き家利活用チャレンジャー / 所属 ▶ 政策企画課
◀◀◀若泉 誠 (23) / 宮城県仙台市




3年目 ▶ 「ワイナリー設立」 今井 雄一 (53)
3年目 ▶ 「空き家利活用」 山中 陽 (28)
3年目 ▶ 「体験型コンテンツ」 馬場 みなみ (25)
2年目 ▶ 「ゲストハウスプランナー」 郡司 紗希 (22)

退任者

井上さんはゲストハウス「よろっで」の設立や運営を中心に2年間、花野さんは小学生の英語学習支援を中心に1年間活躍。今年3月末で退任され、それぞれのステージへ踏み出しました。

 コロナ禍での難しい活動の1年でした。そんな中でも私の活動について関係各所、町民の方々のお気遣いや、応援に感謝の気持ちでいっぱいです。これからの錦江町の益々の発展を願っています。本当にありがとうございました。

子ども学習活動支援員 花野 圭

 2年間の活動で感じたことは、錦江町の人がとても魅力的だということです。よろっででは、これまで約300名の方に宿泊を通してこの魅力を伝えてきました。この町に出会えて本当に良かったです。錦江町最高！

空き家利活用チャレンジャー 井上 聡佑郎

スタート

意欲ある挑戦者が
新たな風を吹き込む

都市圏から意欲ある5名が新たに未来づくり専門員として着任。総勢9名の専門員が錦江町で夢実現に挑戦します！

Point ④ 最長3年間で夢にチャレンジ 地域おこし協力隊制度とは

総務省が進める地域活性化政策のひとつで、都市部から移住する人を自治体が募集し地域おこし協力隊として委嘱する制度。錦江町では地域課題解決に向けてテーマを設定し、未来づくり専門員として委嘱しています。意欲のある都市住民の感覚と、新たに吹き込む風を地域活性化への起爆剤として取り組んでいます。



東京都から2名、千葉県、宮城県、宮崎県からそれぞれ1名が着任。